

## 学生生活

## 岐阜大学剣道部コーチは、アメリカ人の女性剣士。心技体をさらに極め、アメリカ代表入りも目指す。

173cmの長身から繰り出す竹刀の鋭い動きは、女性剣士の中でひととき光る。胴着には「流宇」の文字。面を脱ぐと、頭に巻いた手ぬぐいからブロンドの髪が覗く。本名はジェニファー・アン・ルー。アメリカ生まれ。昨年4月に岐阜大学剣道部コーチに就任。誰よりも剣道にのめり込む彼女の想い、そして夢とは……。

### ジェニファー・アン・ルーさん

#### PROFILE

1980年12月22日、米国フロリダ州タンパ生まれの28歳。同州H・B・プラント高校を次席(480人中)で卒業し、マサチューセッツ工科大学に進学(専攻は電子工学に関する物理学)。卒業と同時に1年間のインターンシップで2003年7月に初来日し、そこで剣道と出会う。2005年には筑波大学研究生となって剣道にのめり込み、修士課程修了を経て、2008年4月1日に岐阜大学剣道部コーチに就任。日中は大学院研究生や英語の非常勤講師などを務めながら、夕方になると胴着に着替え、部員の指導にあっている。現在3段で、ここ2年以内に4段に挑戦すべく日々稽古中。

### マサチューセッツ 工科大学出身の 物理学のエリートから 女性剣士へ転身。

子どものころから興味があった物理の勉強をとことんまで極め、世界トップレベルのエリート校であるマサチューセッツ工科大学に進学したルーさんは、物理学のスペシャリストとして社会で活躍するはずでした。それがなぜ、剣道の世界に身を置くことになったのか……。

事の始まりは、大学で日本人の友人ができたことでした。「彼女を通じてちょっとずつ日本に興味を持つようになって、まずは外国語の科目に日本語を選びました。日本語を勉強しているうちに日本の文化に触

れてみたいという思いが強まって、今度は大学を卒業して1年間のインターンシップに日本の企業を選びました。1年だけ日本にいて、それで帰ろうと思っていたんですけどね」。1年間の日本滞在予定が、もうすでに6年近くになってしまった理由こそ、剣道との出会いです。

インターンシップを利用して茨城県つくば市の企業に勤めたルーさんが、職場の人の誘いで中学校の体育館で目にしたもの、それが子どもたちの剣道の稽古でした。日本ほどではないにしても、アメリカでも剣道は盛んで、その存在は知っていたルーさんですが、あの気合いの入った甲高い声に、母国で知った剣道に対する第一印象は決して良いものではなかったそう

です。ただ、日本に来て、その時に体育館で目にした、先生と生徒の稽古のやりとりや機敏な動きに釘づけになりました。相対する剣士たちの駆け引き、攻撃の読み合い、さらには独特の立ち居振る舞い、伝統として真摯に守られている礼儀作法、そのどれもが衝撃だったと言います。

ルーさんは高校からフェンシングを始めていました。対一で激しい攻防を繰り返す点では剣道と共通する部分もありますが、「フェンシングでは、剣道のように伝統を大切に作るマインドはあまり感じられませんね」と話す言葉の裏には、『技』『体』だけでなく『心』を重んじる『心技体』の思想・文化こそ剣道の最大の魅力という実感があるのでしょう。物理学を極めた次に待って

いたのは、心技体の剣道だったのです。稽古中のルーさんの気迫のこもった甲高い声には、さすがコーチとしての凄みを感じずにはられません。

### ふたつの『縁』を経て 岐阜大学へ。 4段昇段とアメリカ代表を めざす2年間。

日本文化に触れるためのインターンシップがきっかけで実際に剣道の稽古を始めることになったルーさんは、1年後にはすっかり剣道にのめり込んでいました。近くにある筑波大学が剣道の強豪校というのは、これも何かの『縁』だったでしょう。アメリカに帰国どころか、体育科研究生として筑波大学の大学院に通い、修士論文も『剣道の基本性能のバイオメカニクスの研究／成人女性の面打ちの特徴について』というほど、剣道に没頭する日々を過ごしてきました。そして、昨年3月に修士課程を修了したルーさんを待っていたのが、筑波大学剣道部と岐阜大学剣道部の双方の監督の親交が次なる『縁』となって実現した、岐阜大学剣道部コーチなのです。いつしか「アメリカで剣道を教えられるようになりたい」という夢を持つようになってい

たルーさんは、一切の迷いもなく岐阜大学にやって来ました。

それから1年が経ち、岐阜大学剣道部監督の今井先生のもとで鍛錬する日々を過ごすルーさんは、「両親は戻って来いと言ってますけど、あと2年は日本にいて、岐阜大学で毎日稽古して、コーチの勉強もします。もっと剣道を極めないとアメリカには帰れませんからね」と、固い決意を話してくれました。そして、日本にいるこの2年間に、現在の3段から4段への昇段を果たすとともに、アメリカ国内の大会にも挑戦し、アメリカ代表入りもめざすと言います。



剣道歴6年弱のルーさんは毎日稽古を欠かさない。

### 道場で毎日汗を流す。 その先に見る夢は、 母国・アメリカで 剣道を広める『流宇』先生。

「岐阜は空気が良いし、水もおいしいし、住みやすいし、今の生活にすごく満足しています。学生のみ

んなもあたたかくて、いろいろと助けてくれる親切な人たちばかりですね。筑波大学では剣道一本でしたけど、岐阜大学に来てからは剣道以外のことにも触れる機会が増えて、毎日が充実していますよ。食べ物についても「梅干し以外は大丈夫」と、すっかり日本人の感覚を身につけたルーさんは、岐阜大学では大学院の研究生として、さらには英語の非常勤講師などを務めながら『GIFU LIFE』を満喫しているようです。そんな生活の中でも、やはり剣道が一番であることに変わりはありません。

母国・アメリカでは剣道人口はまだまだ少ないものの、人気は年々上昇しているそうです。「剣道初心者がこれからどんどん増える中で、その人たちが剣道を通じて、剣道の技はもちろん人間的にも成長して、そして剣道をずっと続けて、今度はその人の子どもたちにも剣道をさせるようになってほしいですね」。そして、その傍らにはいつも『流宇』先生がいる……そんな光景を夢見ながら、女性剣士として岐阜大学の道場で毎日汗を流し、世界を見据えて挑戦を続ける姿に、たくさんの勇気と情熱をもらっている人も多いと思います。その高い志から、剣道部員の誰もが一目置く存在となっていることは、もちろん言うまでもありません。

### 番外編 女性剣道部員のみなさんに聞きました「ルーさんはどんな人？」

- 剣道がものすごく好き。剣道にハマっている。
- 毎日稽古を欠かさない。練習がオフの日でも自主練習している。
- 背も高くて真つすぐ攻めてくるから、対戦するのがコワイ。
- コーチとして丁寧にいろいろアドバイスしてくれる。
- 試合前など「自信を持ってやって！」と声をかけてくれるので心強い。
- 剣道も考え方も『強い』けど、お酒には弱い。

